

う。資料のうち四枚には両面に写経したものが確認されているが、いずれにも書き損じが認められることから、反対面に正しい経文を書き直したものと推測される。共伴した陶磁器と柿の形状から、一五世紀中葉前後の所産と推測される。

経文の順番を示す巻束番号を法華経全巻を通じて二〇枚おきに記すことが特徴である。また巻束番号の表記が一部不統一であることから(3)「一〇二」、(8)「九十」など、手本経に記された巻束番号不統一もしくは複数存在の可能性があろう。二〇枚一把のうちの一九枚目に相当する柿板に二行の経文を無理やり書き込んであるものが存在し(7)、柿板があらかじめ二〇枚一把にまとめてあり、写経時の書き損じや板の破損、あるいは元々板が一枚不足していたが、補充する状況になかったことを示していると推測される。したがって、それ以降の巻束番号に狂いは生じていない。

柿経は現在整理中であるが、資料の評価にあたっては、奈良大学の水野正好氏、静岡大学の湯ノ上隆氏のご教示を得た。

9 関係文献

(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所「こけら経 函南町仁田館遺跡」
【研究所報九五】二〇〇一年

同「こけら経が大量に出土 来光川遺跡群・仁田館遺跡」『年報一八』(二〇〇二年)

(岩本 貴)

木簡研究 第二三三号

巻頭言—木簡学会の原点—

鎌田 元一

二〇〇〇年出土の木簡

概要 平城宮跡 平城京跡左京三条一坊七坪 藤原京跡十一条・朱雀大路
酒船石遺跡 長岡京跡(1) 長岡京跡(2) 平安京跡左京三条一坊十町 平安
京跡左京六条三坊六町 御室仁和寺 大坂城跡 中之島三丁目所在遺跡
(鳥取藩蔵屋敷跡) 広島藩大坂蔵屋敷跡 加美遺跡 堺環濠都市遺跡
深江北町遺跡 行幸町遺跡 柴遺跡 辻子遺跡 幅下遺跡 中村遺跡 春
岡遺跡群 大坪遺跡 若宮大路周辺遺跡群 北条小町邸跡 北条泰時・時
頼邸跡 汐留遺跡 大崎城跡 蜂屋遺跡 新宮神社遺跡 柿田遺跡 荒井
猫田遺跡 中野高柳遺跡 洞ノ口遺跡 仙台城本丸跡 市川橋遺跡 赤井
遺跡 柳之御所遺跡 馳上遺跡 石田遺跡 山形城跡 本町一丁目遺跡
安江町遺跡 打木東遺跡 畝田ナベタ遺跡 加茂遺跡 吉田C遺跡 美麻
奈比古神社前遺跡 麻生谷遺跡 下ノ西遺跡 腰廻遺跡 蔵ノ坪遺跡 船
戸桜田遺跡 西川津遺跡 尾道遺跡 周防国府跡 観音寺遺跡 中前川町
二丁目遺跡 井相田C遺跡 元岡・桑原遺跡 彼岸田遺跡 沖城跡(1) 沖
城跡(2) 上高橋高田遺跡 白藤遺跡群
一九七七年以前出土の木簡(二三)

平城宮跡(七七次)

釈文の訂正と追加(四)

平城京跡左京一条三坊十三坪(二三号) 大猿田遺跡(一九号) 荒井猫

田遺跡(二三号) 東木津遺跡(二二号) 下ノ西遺跡(二二号)

七世紀木簡の国語史的意義 犬飼 隆

飛鳥池木簡の再検討 吉川真司

新刊紹介 V・L・ヤニン著(松木栄三・三浦清美訳)

『白樺の手紙を送りました—ロシア中世都市の歴史と日常生活—渡辺晃宏

彙報 頒価 五五〇〇円 送料六〇〇円